

19 世紀から 20 世紀にかけて別府への観光が盛んになるにつれて、住人達は公衆浴場であふれる町に自分たち自身で作った施設に観光客を引きつけようと競った。その当時、港はその町への主要な入口の役を果たしていて、新しく到着した人たちは海辺から町のより高い位置にある宿泊所まで歩いて行ったものだった。客取りの競争が激しくなると、その近隣はよく降る雨から雨宿りを求める観光客を引き込もうと表通りや裏通りを覆い始めるようになった。これらの竹でできた通りを覆う構造物はほとんど取り壊されてしまったが、竹瓦温泉近くの竹瓦小路の上につくられたもののよう、まだ残っているものもある。別府の建物は近代的であるが、通りのほとんどは元のままの状態に残されていて、鉄輪温泉ではそれらは無数の温泉からの蒸気でいっぱいの迷路のような登り・下りのある曲がりくねった坂道になっている。